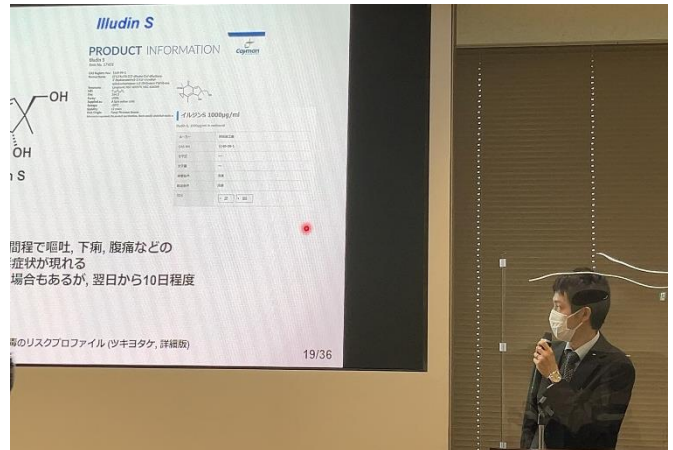
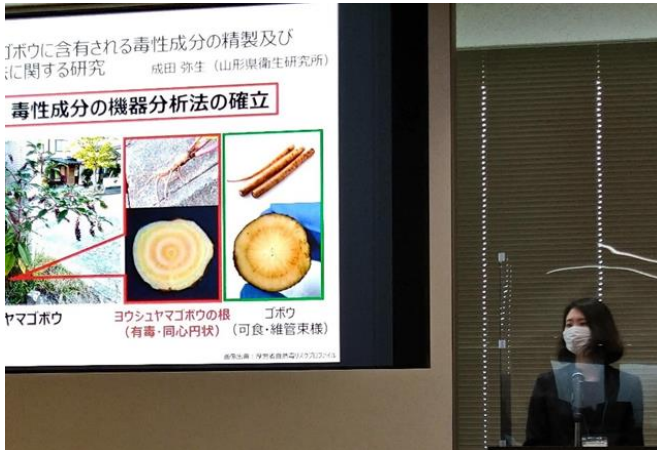


# 衛研ニュース

## No.206



第59回全国衛生化学技術協議会年会が神奈川県川崎市で、3年ぶりに現地開催されました。当所からは成田弥生研究員が「ヨウシュヤマゴボウに含有される毒性成分の精製及び一斉分析法に関する研究」の発表を、石田恵崇専門研究員が「山形県衛生研究所における植物性自然毒研究のあゆみ」と題して講演を行いました。

### も く じ

- ◇ 「毒キノコに注意！！」 全国版のTVに研究員が出演しました！ . . . . . 酒井 真紀子 (2)
- ◇ 令和4年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部  
微生物研究部会・地域保健総合推進事業の合同開催について . . . . . 池田 陽子 (3)
- ◇ 新型コロナウイルスゲノム解析研修会を実施しました . . . . . 瀬戸 順次 (4)
- ◇ 令和3年度 日本獣医学術東北地区学会 日本獣医公衆衛生学会東北地区学会会長賞  
瀬戸順次研究専門員らが受賞！ . . . . . 三瓶 美香 (5)

### 基本方針

県民の生活と健康を支えるため、  
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆまぬ努力

### 編集発行

## 山形県衛生研究所

令和4年12月10日発行  
〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号  
Tel. (023)627-1108 生活企画部  
Fax. (023)641-7486  
URL ; <https://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>



## 「毒キノコに注意！！」全国版のTVに研究員が出演しました！

山形県は豊かな自然に恵まれ、春は山菜、秋はキノコと季節の味わいを楽しむことができます。シーズンになると、独特の風味や芳醇な香りが魅力の天然品を求めて、山に入り自ら採取して旬の味を満喫している方も多いでしょう。

その一方で、毎年のように有毒植物や毒キノコの誤食が原因の食中毒(植物性自然毒食中毒)が発生しています。特に山形県では、直近の20年間(2002～2021年)の植物性自然毒食中毒発生件数は全国1位と大変不名誉な結果になっています。

そのため私たちは、山形県で食中毒が発生している有毒植物や毒キノコについて、食中毒発生時の迅速な原因究明のための研究を行っています。得られた知見は、「衛研ニュース」やHP掲載している「毒に注意」のパンフレット等を通して、少しでも発生を減らせるように県民の皆さまへ、シーズン毎に間違いやすい有毒植物や毒キノコについての情報をお知らせしているところです。

その甲斐あってか、この度のキノコシーズンに合わせて、いくつかのテレビ放送局より取材の依頼がありました。その結果県内放送にとどまらず、ついに全国放送されました。



写真1 当所提供のツキヨタケと間違いやすいキノコの見分け方画像

出典:Nスタやまがた, テレビユー山形, 2022.10.4



写真2 キノコの生育調査の様子を取材

出典:スーパーJチャンネル,テレビ朝日,2022.10.18

この度の取材は、毒キノコ食中毒の原因No.1のツキヨタケについて、私たちが毎シーズン行っている生育状況調査で、実際の生育状況を確認しながら、注意点などをお話するという内容でした。

私たちのこれまでの地道な研究の一端が、テレビを通し県民の皆さまのみならず、全国の方々に興味を持っていただける形として提供できたことは大変意義深いことでした。

これからも研究で得た知見を、わかりやすく、広く社会のために提供していきたいと考えております。

(理化学部 酒井真紀子)



写真3 当所提供のツキヨタケとヒラタケの混生画像

出典:グッドモーニング,テレビ朝日,2022.10.21

## 令和4年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部 微生物研究部会・地域保健総合推進事業の合同開催について

令和4年10月12日～13日、山形県衛生研究所を会場に、「令和4年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部微生物研究部会・地域保健総合推進事業」を開催しました。

新型コロナウイルスの発生以降は、紙面やWEB開催のみでしたが、3年ぶりに31名が一堂に会して行い、各自治体の方々とは有意義な交流ができました。当番県の私たちは滞りなく会を運営できるかドキドキしながらの2日間でした。

1日目は地研支部微生物研究部会総会と教育講演が行われました。東北大学大学院環境科学研究科の中谷友樹教授から「地理情報システムを利用した感染症の空間疫学」という演題で貴重なお話をお聞きました。



研修会で真剣に説明を聞き入る様子



各自治体ごとにパソコンを使って研修を受けている様子



実験室見学とディスカッションの様子

2日目は地域保健総合推進事業地方衛生研究所地域レファレンスセンター連絡会議の中で「ゲノム解析データの活用方法について」と題して実際にパソコンを使用しながら研修を行いました。

微生物部の2名(瀬戸研究専門員、駒林専門研究員)が講師となり、難しいところは優しく丁寧に説明し、あっという間の2時間半でした。

ゲノム解析の結果を図として可視化することは、衛生研究所から保健所や県庁へ説明する上で有用な手段となります。しかし、エクセルを駆使し、英語のソフトウェアを使用する必要があることから、なかなか手を出しにくいのが現状です。その垣根を少しでも取り払って、取り組みやすくできればという思いで実施させていただきました。

研修会終了後には、時間の許す方々に参加いただき、実験室でのゲノム解析手技についてディスカッションを行いました。

こうして、2日間の部会は無事終了しました。

(微生物部 池田陽子)



## 新型コロナウイルスゲノム解析研修会を実施しました

令和4年10月24日～26日、宮城県保健環境センター微生物部の先生方を対象に、新型コロナウイルスのゲノム解析に関する研修会を実施しました。

当所では、令和3年5月に新型コロナウイルスゲノム解析を開始して以降、これまで1,700検体以上を解析してきました(令和4年10月末現在)。それら解析により得られたノウハウを宮城県の先生方と共有することを目的として今回の研修が開催されました。

来所いただいた先生はお一人でした。ただし、新たな試みとして、作業風景をリアルタイムに宮城県保健環境センターにお届けすることで、オンラインでもお一人の先生に参加いただきました(写真参照)。接続の設定に苦労する場面もありましたが、山形県と宮城県をリアルタイムにつなぐ試みは成功したと感じています。

実験室内作業については専門的になるため詳細は割愛しますが、細かい部分も入れると100工程以上ある各種作業の中での大事なポイント、作業のコツについてお伝えしました。

また、ゲノム解析機器から得られたデータを、パソコン上でスムーズに解析するための当所の工夫についてもお伝えしました。ゲノム解析は、実験室内作業(ウェットラボ)に加え、パソコン上で専門的なデータ解析(ドライラボ)をする必要がある点に難しさがありますが、ちょっとした工夫の積み重ねで楽にデータ解析ができることが宮城県の先生方に伝わっていただければ幸いです。

今回は、当所が研修を主催しましたが、こちらが知らなかった点も教えていただき、充実した3日間を過ごすことができました。ゲノム解析は難しい解析手法ですが、これからも連携を取り合いながら、お互いの技術レベルを高めていきたいと考えています。

(微生物部 瀬戸順次)

### 参加された先生方のご感想

10月24日～26日の3日間、新型コロナウイルスのゲノム解析について、オンラインで研修を受講させて頂きました。本来なら現地に出向いて受講すべきところを、個人的なアクシデントにより現地参加が出来なくなった私のために、急遽オンラインでの研修を提案して頂き、山形衛研さんの温かさ、経験豊富な研修受け入れ態勢、技術力の高さを痛感しました。画面越しなのに、現地での研修と変わらないくらいのクオリティで受講でき、大変勉強になりました。

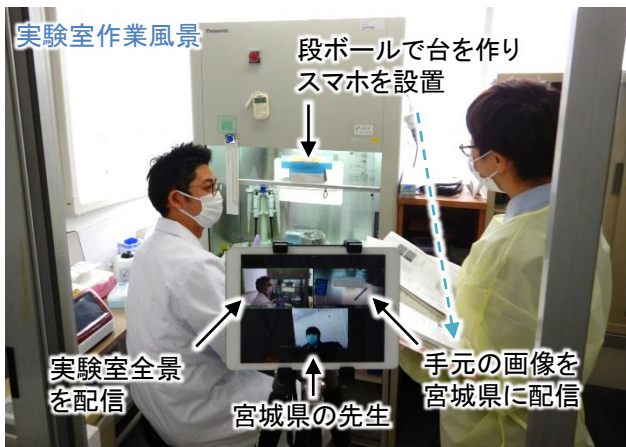
今後も、気軽にご相談させて頂ければと思います。お忙しい中、ご対応頂きありがとうございました。

宮城県保健環境センター(微生物部)鈴木優子

大変お忙しい中、3日間にわたる研修を調整していただきありがとうございました。検体の選別からデータ解析までの一連の流れについて教えていただき非常に有意義な研修となりました。検査マニュアルだけではわからない気を付けるべきポイントや独自の工夫など、大変参考になりました。また、当所で開催した予備試験結果やデータ管理の方法についても様々なアドバイスをいただきました。

引き続き情報交換させていただきながら、ゲノム解析の技術に習熟していきたいと思っております。

宮城県保健環境センター(微生物部)坂上亜希恵



## 令和3年度 日本獣医学術東北地区学会 日本獣医公衆衛生学会東北地区学会長賞 瀬戸順次研究専門員らが受賞!

令和3年10月11日～31日にオンデマンド配信で開催された、令和3年度 日本獣医学術東北地区学会において瀬戸順次研究専門員が発表した、「新型コロナウイルスゲノム解析の現状と課題」が日本獣医公衆衛生学会東北地区学会長賞を受賞しました。

この学会では、令和3年5月に山形県で解析を開始したウイルスゲノム情報を利用したCOVID-19対策の現状を示し、将来にわたって持続可能な事業とするために必要な課題を検討した成果を発表しました。その内容が獣医公衆衛生学に関する調査研究の発展に寄与したと認められ、受賞に至りました。

今回の受賞を励みに、今後も公衆衛生の向上を目指し職員一丸となって研究を進めてまいります。

(微生物部 三瓶美香)



## 衛生研究所の論文・学会発表等

### 論文

- 1) Hamamoto I, Takahashi H, Shimasaki N, Nakamura K, Mizuta K, Sato K, Nishimura H, Yamamoto N, Hasegawa H, Odagiri T, Tashiro M, Nobusawa E. Suitability of NIID-MDCK cells as a substrate for cell-based influenza vaccine development from the perspective of adventitious virus susceptibility. Microbiol Immunol. 2022;66:361-370.

### 学会

- 1) 瀬戸順次、水田克巳：エクセルVBAを用いた新型コロナウイルス検査台帳システムの構築、第81回日本公衆衛生学会総会、2022年10月7-9日、山梨市
- 2) 成田弥生、篠原秀幸、長岡由香：ヨウシュヤマゴボウに含有される毒性成分の精製及び一斉分析法に関する研究、第59回全国衛生化学技術協議会年会、2022年10月31日-11月1日、川崎市

### その他講演

- 1) 駒林賢一：新型コロナウイルスの遺伝子検査を読み解く、第41回山形県医学検査学会、2022年10月22日、長井市
- 2) 石田恵崇：山形県衛生研究所における植物性自然毒研究のあゆみ、第59回全国衛生化学技術協議会年会、2022年10月31日-11月1日、川崎市
- 3) 石田恵崇：山形県衛生研究所における自然毒研究への取り組みについて、令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会、2022年11月4日 (Web)